

なんとなくのひろば

第 80 号

2025/7/24 発行



特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

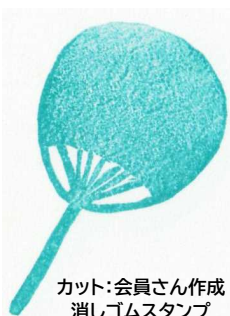
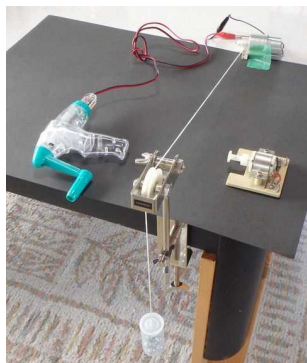
URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

こども サイエンスカフェ・2025

NPOなんとなくのになわ が始動した頃、「不登校の子の居場所」をみんなに知ってほしいと始めたのが「なんにわ・サイエンスカフェ」でした。「子ども向け」に限定せず、子どもも大人もそれなりに楽しめるイベントという発想で始めました。2006年6月・宇宙の話から、2012年6月の「川むしたんけん」まで、41回の記録が残っています。2011年の東日本大震災からは放射能汚染が深刻な課題となり、科学への信頼が大きく揺らぎました。「科学の楽しさ」など手放しで言える時代ではないとの思いが強くなりました。その後、放射能・放射線の性質やその測定についての講演依頼が数年間続きました。

コロナ感染蔓延のため、カフェ中断時期が続きましたが、一昨年から小さなイベントを単発的に試みました。「今市の水を守る市民の会」と共同での「川むしたんけん」も再開しました。そんな中、日光市民活動支援センターと話し合いながら考えてみました。「居場所」で今までやってき



分光器・8月5日に作ります



た小さな実験や観察。手回し発電機の電気で重りを持ち上げ、落とすと発電できる装置(最近開発中・左写真)や昨年レポートした重力加速度の測定など、センターと協力しながら体験的イベントを始めようと計画しています。

第1回目は「分光器を作って光をしらべてみよう」。光はいまでも謎だらけ。8月5日(火)午後1時から1時間ほど。詳しくは「なんにわ」までお問い合わせください。(手塚)

子育て・親育ちの茶話会

場所： 子どもの居場所 (日光市今市316-4)

日時： 毎月 第2月曜日 (午前10時~12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費： 300 円 (お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。

(Tel : 090-3227-7079)



瀬高市長と面談 5月23日から、日光市長に就任された瀬高市長との面談が6月10日に実現し、理事4名が参加しました。(1)「なんとなくのになわ」のいままでの歩み、(2)日光市委託により毎週月-金曜日に開く「子どもの居場所」、(3)特定相談支援事業・さくらそうの事業内容について、それぞれの担当者が説明を行いました。瀬高市長からは、「不登校」について学生の頃から関心を持っていたという話を伺い、心強く感じました。

「教育機会確保法」(2016年に成立)により、いま、不登校への対応が「学びの権利を保障する」という考えへと転換しています。その動きによって、学校がより自由で楽しい場所になってほしいという私たちの希望を話しました。最後に県立高等学校再編についての意見を述べ、30分ほどの会話を終えました。瀬高市長、お忙しい中ありがとうございました。(手塚)

目次

こどもサイエンスカフェ	1
瀬高市長と面談	1
第21回 通常総会 報告	2
田んぼの生きものたんけん	3
活動報告	3
こんな本はいかが・70	4

居場所のひとこま

いままで使っていた古い卓球台、ゆがみが目立つようになり、ちょっと大きなタイプに新調しました。夏場は2階はとても暑くなります。熱中症に注意しながら、短い時間ですが卓球を楽しんでいます。



第21回 通常総会 報告

2025年5月10日(土)午後1時30分から「子どもの居場所」にて NPO法人なんとなくののわ の通常総会を開催しました。正会員数50名、出席正会員34名(うち表決委任者22名)により定足数を満たすことを確認し、議事が始まり、事業報告、新年度事業計画および役員選任について、

第1号議案 2024年度事業報告

第2号議案 2024年度収支決算報告および監査報告

第3号議案 2025年度事業計画案

第4号議案 2025年度活動予算案

第5号議案 役員選任(役員全員の重任)

が出席者一同の拍手により承認されました。

理事および監事の任期は2025年7月1日から2027年6月30日まで。被選任者は即時にその就任を承諾いたしました。

理事 栗原 真佐美、白井 佐智子、手塚 郁夫、西尾 敬子、
福田 尚史、丸本 香、村上 幸子、吉成 勇一

監事 大久保 みどり

以下は本総会で承認された2024年度事業の概要です。

(1) 居場所の提供と学びの場の運営

委託事業「日光市子どもの居場所・学びの場」の12年目が終了しました。2024年度も学校長期休業中の平日も居場所を開所し、スタッフ2名の体制で実施しました。呼吸器感染症の予防のため、必要に応じたマスク着用、風邪の症状のチェックなど基本的な対策を行いながら、無事に1年を過ごすことができました。

開所日は244日、居場所登録者数は14名(小学生4名、中学生10名)および高校生以上2名でした。延べ435人(小中学生:401人、高校生以上:34人)の居場所利用がありました。登録者数は前年とほぼ同じ人数でしたが、来所延べ人数は昨年の236人に比べ大きく増加しました。とくに今まで見られなかった継続的な学習支援ができたことは2024年度の大きな経験でした。今後も子どもたちの多様な要望に対応する仕組みづくりを進めていきたいと思っています。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した

新たなカリキュラムや教材の開発

「学びサポート」は希望者がなく、昨年度は未実施でした。試みとして月に数回、オンライン等で行っていた情報系に関心を持つメンバーによる「なんにわ勉強会」を拡張し、自由参加の「金曜日カフェ(F-Café)」を始めました。2025年度は4月25日から始め、月1または2回のペースで午後7時から9時まで、その時々話題を持ち寄り話合います。ときには話が脱線して、思わぬテーマに移っていくことも。折り紙、鉱物、AI、電気回路、読み始めた本の話題...などなど。会場は日光市民活動支援センターです。興味をお持ちの方はぜひ「なんとなくののわ」に電話やメールでお問い合わせください。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/> を公開しています。定期的な更新により、居場所の紹介・開

所予定、活動内容の発信を行っています。

(4) 教育についての相談や情報提供活動

不登校相談、教育についての悩み相談などに随時対応しました。相談件数は34件、訪問者は229名でした。前年度より日光市広報に「不登校相談」として掲載された効果もあり、問い合わせは増えていますが、居場所の利用になかなかつながらないことが課題です。

今市公民館で昨年10月に行われた「日光ボランティア・市民活動フェスタ」に参加し、活動の説明、資料・通信の配布を行いました。

通信「なんとなくのひろば」を例年どおり3か月間隔で4回発行、各号250部印刷し、会員および日光市内の小中学校に配布しました。

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の

自立に関する相談および就労を支援する活動

「ひきこもり相談センター・かがやき」、「NPO法人だいじょうぶ」など地域支援団体との連携を取りました。

(6) 自然環境の中での学びを作り出し、

子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

「今市の水を守る市民の会」との共催行事、「川むしたんけん隊」を5月に神子内川(足尾)、10月に行川(明神・中井橋近く)の2回実施しました。環境測定班の放射能測定は随時継続しました。

(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼まで「子どもの居場所」で開きました。気軽な雰囲気集まり、子育ての悩みを話し合う時間となっています。以前、「子どもの居場所」に係わった保護者さんがワンコインマッサージで来所し、参加者・スタッフを癒しています。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

さくらそうは2014年5月から計画相談を開始し、まる11年が経とうとしています。2024年度は相談員2名で85名ほどの計画作成・モニタリング・担当者会議を実施しました。今年度はご本人と支援者との調整を行うための会議が多くありました。担当人数は、新規の方(以前関わりのあった方も含め)が5名増え、担当終了の方が亡くなった方3名・サービスの利用終了の方(介護保険移行含め)6名・相談員交代2名・進学に進まれた方5名で合計17名、全体で12名減となりました。放課後等デイサービスの利用(高校在学まで利用可)を終了した方は、本人や家族・事業所の二人三脚で頑張って進学された方が多く、ほっとしています。来年度は相談支援専門員一人体制に戻りますが、ご本人のより良い生活や希望が叶えられるように継続していければと思います。

2014年5月から、市役所一階社会福祉課「障がい者相談支援センター」に栗原が出向して11年になります。この一年は、怒涛の日々で休みの日にも夜も相談がきました。また、多職種での連携も必要でした。市役所でも重層的支援が整備され、2025年度もさらに忙しくなりそうです。

より詳しい活動報告・決算資料はホームページに掲載しています。なんにわホームページより、[財務諸表]のページをご覧ください。

☆ 活動日誌

4月24日(木) 通信「なんとなくのひろば」第79号 発行
 4月27日(日) ベリー会(22周年記念講演会)
 5月10日(土) 第21回 通常総会(子どもの居場所:午後1時30分開会)
 5月12日(月) 茶話会(第144回)
 5月12日(月) 前事業年度の事業報告書を提出(日光市役所・地域振興課)
 5月25日(日) ベリー会(グループ相談会)
 5月31日(土) 田んぼの生きものたんけん(共催:今市の水を守る市民の会)
 6月 9日(月) 茶話会(第145回)
 6月10日(火) 瀬高日光市長との面談(10:40~)
 6月29日(日) ベリー会(学習講演会)
 7月 1日(火) 第126回 理事会
 7月 7日(月) 茶話会(第146回)
 7月18日(金) 通信「なんとなくのひろば」第80号 発行

さくらそう関連 連絡会など

2025年度 日光市相談支援専門員連絡会

4月23日(水) 重層的支援体制整備事業について

6月25日(水) ABCリビング(自治医大)見学
 (ALS・神経難病・重度心身障害者専門ホーム見学会)

2025年度 日光市障がい者自立支援協議会

4月10日(木) 第1回 ケース・事例検討会議

5月29日(木) 相談支援実務者会議

6月12日(木) 第3回ケース・事例検討会議

7月 8日(木) 第4回ケース・事例検討会議

2025年度 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会

6月13日(金) 日光・鹿沼メンバー間の交流会

その他の説明会

6月10日(火) 説明会 ~ 就労選択支援について

7月 3日(木) 就労選択支援説明会 in 栃木(ZOOM)

春の自然観察

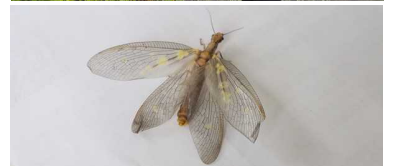
田んぼの生きものたんけん

5月31日(土) 9:30~11:30 鹿沼市板荷

「今市の水を守る市民の会」との自然観察共催行事、今年の春は塚崎さんの発案により、「田んぼの生きものたんけん」を企画しました。田植え前の水田にどんな生きものが活動しているのでしょうか。鹿沼市板荷で無農薬米づくりを実践されている潮田さんの協力をいただき、子どもたちといっしょに調べてみることにしました。

数日前から荒天が予想されましたが、雨が降り出したら、田んぼ近くの広い屋根付きの作業所でという潮田さんの提案に力を得て当日の朝を待ちました。昼前には強い雨になるという予報もありましたので、集合前に早めに昆虫を集めようと早めに田んぼに入り、準備しました。

午前9時半、子どもたちと保護者さんが集まりました。



ヘビトンボの成虫(トンボ類ではありません)

コオイムシ、たくさん見つかりました



注意と説明のあと、それぞれが選んだ場所から田植え前の田んぼに入りました。えいっと田んぼに足を入れる子、田んぼの脇から虫取り網で水をすくおうとする小さい子もいました。11時に近付くと雨と風が強くなってきました。全員潮田さんの作業所に避難。つかまえた生きものをトレイに入れ、観察し、分類しました。

◆カエル(トウキョウダルマガエル、種類不明:オタマジャクシ多数)、◆昆虫(タガメ、ゲンゴロウ、コオイムシ、トンボの仲間[アカネ類]、ヘビトンボ[成虫])、◆貝類(マルタニシ、モノアラガイ)、◆水草(アカウキクサなど)多くの種類が見つかり、とても生き物にやさしい田んぼではと考えられます。当日の気温は16℃、田んぼの水温は17℃でした。

おわりに、潮田さんから農薬や化学肥料に頼らず、昔から受け継がれてきたという米作りのお話を伺いました。田んぼを耕すためのトラクター、田植え機なども見せていただきました。雨の中、集まった子どもたちと一緒に楽しむことができました。ありがとうございました。(T)

なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 70

いじめのある世界に生きる君たちへ

いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉

中井久夫 著 2016年 中央公論新社

今回は、3年前に亡くなった精神科医の中井久夫先生の本を紹介します。中井先生は、統合失調症研究の第一人者です。中井先生は戦時中、疎開先でひどいいじめを経験したそうです。

この本は子どもたちに向けた児童書です。いわさきちひろの挿絵が使われていることで、優しさを感じます。「いじめ」は日本だけのものではなく、世界中にあります。深刻ないじめにあった人たちの心はかなり傷つき、生涯にわたって影響が出ます。

この本の内容は、① いじめは犯罪でないという幻想

② いじめかどうかの見分け方 ③ 権力欲 ④ 孤立化 ⑤ 無力化

⑥ 透明化 ⑦ 無理難題 ⑧ 安全の確保 です。

子どもたちは、家庭や学校でいじめのやり方を学んでいることは事実です。私たち大人の生き方を良くも悪くも子どもたちは受け取っています。子どもであっても「権力欲」は芽生えるし、「支配欲」も生まれます。中井先生はいじめが進んでいく段階を「孤立化」「無力化」「透明化」と名付けています。「この順番が実に巧妙で、だから気づかれにくい」「人間を奴隷にしまうプロセス」と書いています。このことは、子どものいじめだけではなく、大人の世界でも容易に見つけられる事象です。

では、その対策は？「まずいじめられている子どもの安全の確保であり、孤立感の解消であり、二度と孤立させないという大人の責任ある保証の言葉であり、その実行である」と書かれています。どれだけの大人が責任ある行動をとれているだろうか、と考えてしまいます。

この本は大人の皆さんに読んでほしいし、是非子どもたちと話し合ってもらいたい内容です。公立の図書館に置いてありますので、一度手に取って読んでみてください。（白井）

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：48

賛助会員：13

団体会員：3

入会金なし

年会費（一口）

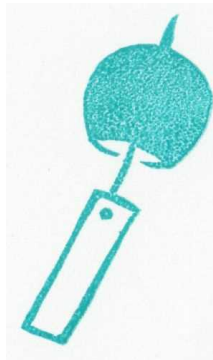
正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円

団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営に直接かかわることができます。積極的な参加をお願いします。



なんとなくのへや

通信「なんとなくのひろば」はマイクロソフト・オフィス(Microsoft Office)「パブリッシャー(Publisher)」という編集ソフトで作っています。ワード(Word)、エクセル(Excel)、パワーポイント(PowerPoint)は人気がありますが、「パブリッシャー」で会誌やチラシを作っている人はわずかのようです■「オフィス」を使い始めたのは2000年頃。「ワード」や「エクセル」にはどこかなじめず、データベースの「アクセス」(これもオフィス・ファミリーの一員)をいじっていた頃でした。この時期に「今市の水を守る市民の会」から通信やビラ作成を担当する広報係を依頼され、ちょっと調べてみたら、どこかの雑誌に『デザイン初心者からプロまで多様な使い方に対応できるパブリッシングソフト。簡単に冊子、チラシ、ポスターなどを作成できる』という記事を見つけ使ってみることにしました。当時は「オフィス」を買うと「パブリッシャー」も付いていました。ためにチラシを作ってみたところ、文字ボックスの扱いやすさ、レイアウトの柔軟さが抜群でした。ユーザの自由度をできるだけ尊重するという、「ワード」には見られない設計思想が込められているように思えました。使い始めてから四半世紀、ずっと重宝しています。いまでも「オフィス」のなかで、いや、マイクロソフト製品のなかでいちばんよいソフトと思っています■その「パブリッシャー」、なんと2026年10月以降はサポートがなくなるとマイクロソフトが予告しています。現在の機能を維持してくれれば十分満足なのに、何ということでしょう。サポートが停止になっても、すぐ使えなくなるわけではありませんが、パソコン置きかえ時に新たにインストールができません。■「ワード」は制約がたくさんあります。デフォルト設定を無効にしてもアップデートで戻ってしまったりで使う気がしない。代替手段を調べようと思っているうちに来年になりそう。使い慣れた道具の修理ができなくなることは、辛いものです。（T）